

## 支店長の 須点

長江 敬氏



神戸に赴任して早くも3カ月余りが過ぎました。この間、兵庫県経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で急速に厳しい状態に追い込まれました。

県内の経済統計をみても、4月の百貨店販売額は前年比7割減り、神戸市内ホテルの平均稼働率も1割に低下するなど惨憺たる状況となりました。企業の生産活動は大幅に低下し、新規求人数が前年を3割以上下回るなど雇用面にも影響が徐々に広がっています。

先月、緊急事態宣言は解除されましたが、当面は「三つの密」を回避する観点から、小売店や飲食店などでは従来よりも客数がかなり減少する中での営業を余儀なくされるとみられます。

### コロナ後の環境変化に向けて

政府や自治体などによる各種支援策により、企業の存続や雇用の維持を図っていくことが必要です。

さらに感染拡大の収束後を展望すると、コロナ前の環境にそのまま戻る可能性は低く、想定される変化に備えていくことも重要となります。例えば、外出の自粛要請の間に広まったテレワークやネットでのサービスは、今後、一段と普及していくでしょう。他方でリモートやネットの領域が広がる分、リアルや対面でのサービスに対する価値が高まることも想定されます。

いずれにしても、環境変化は新たなビジネスを生み出す契機となります。望ましい変化だけではないでしょうが、地域のさらなる発展につながるよう、積極的な対応が期待されます。私自身、図らずもこうした厳しい時期に当地に赴任したことでもあり、これから地元の方々と意見交換を重ね、県内経済の今後を考えていきたいと思えます。